

クラッシー

CLASSY

発行 筑後八女地区 西日本新聞エリアセンター
 企画 イースタンコミュニケーションズ
 印刷 株式会社 東兄弟 TEL 0943-24-2111
 八女市祈祷院563 〒834-0025
 HP:www.dcity-yame.com
 E-mail higashikeitei@tea.ocn.ne.jp

クラッシーのバックナンバー（2010.1.1号より）がインターネットでご覧になれます。
 「デジタルシティやめ」→クラッシー→検索

9 SEP

	日	月	火	水	木	金	土
10	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
くるぎふるさと日曜日市 上陽ふるさと市 毎週日曜日 毎週土曜日 ○読み聞かせ 八女市立図書館(本館) 毎週土曜日 午後2時～ ゆめみらい図書館(黒木分館) 毎月第2土曜日 午前11時～ ○赤ちゃん読聞かせ 八女市立図書館(本館) 毎週土曜日 午前11時～ ゆめみらい図書館(黒木分館) 毎月第2土曜日 午前11時～		1 7月19日 先勝	2 20日 友引 八朔花火大会 (八女市祈祷院・20:00～)	3 21日 先負 弁護士無料法律相談 (福岡法務局八女支局) 要予約 ☎050-3383-5502	4 22日 仏滅 なんでも人権相談所 (八女市社会福祉会館)	5 23日 大安
6 24日 赤口	7 25日 先勝 べんがらの日 (べんがら村) 大浴場お一人様300円	8 26日 友引	9 27日 先負 なんでも人権相談所 (筑後市中央公民館)	10 28日 仏滅	11 三りんぼう 大安	12 30日 赤口 光と音楽の花火大会 (宮野公園)
13 8月1日 友引 八女軽トラ市 9:00～12:00 (八女観光物産館駐車場) JA まごころ会館長浜感謝祭	14 2日 先負	15 3日 仏滅	16 4日 大安 無料弁護士法律相談 13:30～(八女民主商工会) 要予約 ☎24-2727	17 5日 赤口 弁護士無料法律相談 (福岡法務局八女支局) 要予約 ☎050-3383-5502	18 6日 先勝 定例法律相談会 (要予約) 10:00～12:00 (八女商工会議所) ☎22-5161	19 7日 友引 人生史サークル黄檭の会 (福祉会館) 八女のまつりあかりの祭典 あかり絵ハレード 提灯まつり・地場産まつり ～20日
20 8日 先負	21 9日 仏滅 敬老の日 八女福島の燈籠人形公演 ～23日まで	22 10日 大安 国民の休日	23 三りんぼう 赤口 秋分の日 THE STRIPES CONCERT (18:00 サザンクス筑後大ホール)	24 12日 先勝	25 13日 友引	26 14日 先負 お風呂の日 (特典あります) (グリーンピア八女)(公園の宿) (温泉館きらら)(べんがら村) ミニ健康教室 (14:00～15:00) 足の痛みについて(外反母趾を中心に) 川崎病院 要予約 ☎23-3005
27 15日 仏滅 八女軽トラ市 9:00～12:00 (八女観光物産館駐車場) 九州オルレ九重・やまなみバスウォーク (八女歩こう会) 南こうせつ 伊勢正三 SPECIAL CONCERT (17:30 サザンクス筑後大ホール)	28 16日 大安	29 17日 赤口	30 18日 先勝	心配ごと相談(八女市) 八女市社会福祉会館 9月2日・16日・30日 黒木町ふじの里 9月2日・16日 上陽町地域福祉センター 9月9日 立花町かがやき 9月9日 法律相談(要予約) 八女市社会福祉会館 9月11日 黒木町ふじの里 9月18日 上陽町地域福祉センター 9月25日 司法書士相談 黒木町ふじの里 9月11日 八女市社会福祉会館 9月18日 筑後市 心配ごと相談 毎週木曜日/総合福祉センター		

「さり気なく聞いて身にしみ話かな」山本健吉編の歳時記初秋情趣にとむ風生の一句が眼にとまる。▼いささか自己喧伝のそしりもと気になるが、事の次第は、書肆侃侃房のすすめで去る五月、雑文収録の『青嵐点描』出版。すばやい反応、出版記念祝賀催しの発起人はなんと東京在住、スマートデバイスの開発等で活躍の新東電社長井手口博登氏。七月中旬、帰郷、その折、『グリーンピア八女』にて一速電。▼社長は『世界子ども愛樹祭コンクール』の有力な後援者でもある。そこで松尾理事長、栗原(浩)公民館長三名連記の発起人による呼びかけ。パーティー、それぞれに心こもるスピーチに、85歳の老無名詩人、感銘。▼この会で初対面は、井手口社長の実家、黒木町大淵、無田の奥深い山郷で牧場経営の一家三人。受付の世話には若牧場主夫人友香さん。訊けば、なんと乳牛専門の獣医師。東京女子学院から帯広の畜産大卒。95頭の乳牛診断を請われ、この山里へ。いつしか若社長奮闘ぶりに恋心も。結婚へ。『牧畜・酪農界』も、若き女性獣医さんの存在に信用倍増。▼花の都東京より奥八女の山郷へ、お嫁入り。近年、稀な縁結び。老詩人、NHKの「朝ドラ」にもしたてたいようなロマンと胸のうちで感激の拍手。

天宮金ふんり
 山郷ロマンは
 胸にしむ
 詩人推窓 猛



楽しい絵手紙



筑後市津島

江口 智子

絵手紙は以前から心惹かれるものがあり、機会があったら是非挑戦してみたいと思つていました。その頃指導して下さる原武先生に出会い絵手紙教室に入会しました。先生は一人一人のレベルに合せ、その人の個性を大事にして褒めながら一筆入れて頂くと、今まで昼寝していた様な絵がパッと目をさまし、下手なりに生き返ります。今回は観賞用に庭に栽植したホオズキを描いてみました。少女とホオズキの組合せから頬突という説もあるそうです。カメ虫が好んでこの葉を食べるけれど私が描くまで待つてくれて感謝しています。友達から「あなたの絵手紙はどんな薬よりも効きそうです」などの返事をもらうと「待つていてくれてありがとう」と心の中で叫びたくなります。

健康万歳 ⑮ 認知症をよく知ろう

高齢化が進むと老化による物忘れなのか、認知症なのかの区別が付きにくくなる。老化による物忘れと認知症の物忘れは似ているようでもまるで違う。老化による物忘れが部分的な記憶の忘れであるのに対し、認知症による物忘れは体験そのものをスッポリと忘れていく。

認知症は、「アルツハイマー型認知症」、「レビー小体型認知症」「脳血管型の認知症」が大部分を占めている。

症状は中核症状と周辺症状があるが、後者の方が症状も多彩なだけ介護者に大きな負担をかける。認知症も他の病気と同じように初めが大切で、頭も使わないと筋肉や骨と同様ドンドン劣化する。

中核症状には薬の効果は余り期待は出来ない。

幻覚、妄想、不眠、不安、焦燥、徘徊、暴言・暴力、介護抵抗、失禁、漏便などの周辺症状には生活背景に原因が潜んでいることも多く、対応の仕方ではまだ改善の余地はある。ただ手が届かないからと言って早々と服薬に頼り過ぎるのは良くない。高齢者は肝臓や腎臓などの機能が低下しているのでクスリが体内に蓄積され易く副作用も出やすい。特に多剤服用の場合は危険がいっぱいだ。

10年ほど前までは「老人ボケ」と言われながらも家庭の一員としてそれなりの役割を果たしてきた。現在500万人を数える認知症は高齢だけの理由ではなく、核家族の結果、此れまでの老人の役割を奪い、介護施設の中に閉じ込めざるを得なくなった社会構造の変化も見逃せない。

老人施設で仕事をしていてよく目にする光景で思うことだが、お互いの会話も少なく目標も持てない老人たちが、マニュアル通りに至り尽くせりの介護を受け、逆に認知障害を進行させているのではないかと言う事だ。家族の方の面会は何より刺激になって目の色まで違ってくる。会話などで向き合うことが病状の進行を食い止める最良の手立てであると思うことが多い。 林 栄一(医師・八女市立花町)

彼女は毎晩、主のいない広い駐車場で夜空を見上げていた。涙でにじむ月を見た。星を見た。どんなに暴言を吐かれても突き放されても無視されても、かつて優しく待っていた。本当はそんな人ではないと……。二年待った時、そこは自分の居場所ではないことに気づいた。騙され欺かれ自分の存在は消えていることに気づいた。もう彼女は空を見上げなくなった。どんなに星がきれいな夜も。言葉を伝えることも帰って来ない返事を待つこともしなくなった。歌も聴くこともなくなった。そしてとうとう彼女は春、毎年大好きなツツジが咲く頃に咲くその場を離れる決心をした。もう寂しい気持ちに包まれなくてもいい。寂しさからの解放と同時に、彼女は長い間隠されていた事実を知った。笑い合える日を目指していた彼女とは裏腹の事実。嫌がらせ、わざと苦しめるハラスメント。彼女の心には、深い傷が残った。それから三ヶ月。久しぶりに相手からの連絡がきた。昔、一緒に行ったライブに行くの？と。彼女は相手の心が解けたかのように思えて喜んだ。けれどそれは、かち合わせないための確認だった。その瞬間、夜の広い駐車場の寂しさに引き戻された。幸せになりたい。彼女はそう願いながら必死に前を向いた。彼女の頬にはまだ乾いていない涙のあとがあった。それでも通り過ぎる夏を見送り、新たな季節に強く一步を踏み出した。 森

黄櫨 新春特別号

新年頭のごあいさつ 平成28年版 原稿募集



①平成26年版 ②平成27年版 ③平成28年版

平成26年にスタートした本誌には過去2回で県外を含む延85名の方から新しい年にかかる夢と希望、生きる喜びと決意をお寄せ頂きました。改めて信念、志を強く持ち続けることの大切さを教えられました。本誌を手にした人たちにも世代を越えて感動と生きるヒントを与えることができました。

スマホ、フェイスブック、ipad、タブレット…めまぐるしい技術革新を前に、今の音声も映像も決して永遠ではありません。一方紙に書いた文字は1000年の時を経ても残ります。今こそ活字力を信じて文字を通して縁と絆を深めませんか。

原稿内容 特に指定はありません。素直な心境で例えば父や母、夫や妻への感謝の気持ちや子や孫へのメッセージ、自分への叱咤激励など800字以内に書いてみませんか(厳守・見出し、氏名は字数に加えません)。短歌・俳句・川柳は20首(句)。一人B6判(182×128mm)2頁に編集して掲載します。ペンネームや匿名での参加は不可。個人情報保護のため住所は市・町名のみ掲載、電話番号は掲載しません。著者校正なし。原稿は返却しません。

本の製作費用 1冊540円(消費税)で1人10冊(以上)買い取りのご負担をお願いします。新年の挨拶として特別な人へのプレゼントにはいかがでしょうか。原稿受領後、送本依頼書をお送りします。

発行 平成27年12月20日(予定)。個別に本の発送を希望の方には平成27年12月30日～平成28年1月3日の間に着くよう、送料1冊110円(消費税)にてメール便にて発送代行します。10冊(以上)1ヶ所に送る場合は送料500円(消費税)

原稿締め切り 平成27年10月末日必着。郵送、FAX、メールで下記へお送り下さい。住所・氏名・電話番号を明記して下さい。原稿内容によっては掲載できないこともあります。頁数に限りがある為に先着順になる事をご了承下さい。

この企画及び黄櫨の会に関するお尋ねは 人生史サークル 黄櫨の会 事務局 東迄 〒834-0025 八女市祈禱院563 TEL.0943-24-2111 FAX.0943-22-4100 E-mail:higashikeitei@tea.ocn.ne.jp http://www.dcity-yame.com

矢部川源流・杉の里の四季 ④7

ウバユリ(姥百合)[ユリ科]

ウバユリの花は矢部村では7～8月頃、やや湿った明るい林の中や小道脇などに咲く。春の芽を出した直後の若葉や地下の球根・鱗茎(りんけい)を食用にもされてきている。

和名は花が満開になる頃には葉が枯れてくる事が多いため、歯(葉)のない「姥」にたとえて名づけられている。

(黒木町) 松尾 重根



黄櫨の会 公開講座

聴講無料

どなたもお気軽に ご来場下さい

演題 「魅力ある俳句とは」 講師 城 尊恵 先生(西日本短大附属高校教諭) 日時 9月19日(土) 13:30～ 場所 八女市社会福祉会館

眩き

ハラスメント

今月の山柳



郷土が誇る、歴史的遺産の岩戸山古墳。石人石馬の並ぶ別区は、緑豊かな自然に包まれた憩いの場所である。流れる雲の下、楽しく遊んでいた親子が、帰り際に埴輪へ、そっと彼岸花を手向けて行った。

八女川柳会 安達 昇

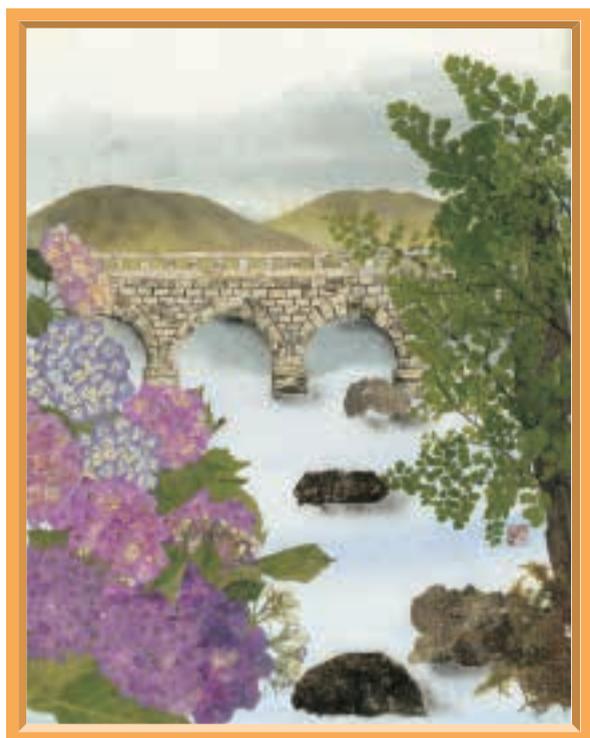
街かど gallery



八女市今福 松延 正子

子供の頃から花が好きで野辺に咲くレンゲ草やタンポポ等を本にはさんで押花を楽しんでいました。でも色あせてしまった花をみると何とか綺麗なままの花が残せないかなとの思いがありました。

そんな中、公民館での押花教室に参加し、その縁で伊藤先生やサークルの皆さんに出会い十数年経ちました。途中病気で休んだりもしましたが伊藤先生と皆さんのご協力でも楽しく参加させてもらっています。日頃は本や写真を参考に作画していますが、この作品は初めて上陽町の石橋をスケッチに出かけて仕上げた思い出の作品です。



また、押花を通して花好きなど夫と共有できる時間を持つことも幸せです。

今月の色

梨子色

梨の表皮の色。視覚デザイン研究所「和の色のものがたり」



リンゴとバナナ以外何でも出来るというのがかつて豊穡の地八女の自慢であった。特に夏から秋にかけては桃、西瓜、ぶどう、イチヂク、梨、栗、柿、みかんと次々に旬のフルーツが出回ります。記憶に残る小学校の運動会は、そんな秋に開催される集落あげての一大イベントでした。かけっこで転んでも、相撲に負けても、テントの下家族で食べる栗ごはんのお昼は楽しかった。食後は皮を剥いた梨と柿がきれいに並んでいた。そして甘いみかん。現在運動会は春に行なわれているようだがどんな昼食だろうか。

◆「今月の色」原稿募集。皆さんの心に残る色とそれにまつわる思い出を300字以内にとめて(株)東兄弟送送お送り下さい。住所・氏名、電話番号明記。よければ顔写真添付。

年を取ると

深町 準之助

還暦を過ぎると人はかんたんに年を取ります。難儀なことは何もありません。古稀なんざあ駆け足。喜寿ともなるとこれはもうよいい。どん！で決まり。むろん途中で棄権する人もいます。レースです。からとにかく年を取ると人は皆朝が早くなり朝が早いから昼も早い道理したがって夜の来るのもまた早いのです。九時には寝ている忙がしさあ、年寄りとは全くもって早起きのにわとりみたいな存在ではないでしょうか。ほら、もう床の中で、ごそごそ起き支度を始めています。チュンチュン 雀の賑わいにあわてて目ざめた子供の頃とどうです。どこか似ていませんか。

野鳥ウォッチング ⑧ カワセミ

川の宝石とよばれるカワセミ。川の水面を「ツウピーイ、ツウピーイ」と鳴きながら低く飛んでいます。魚を見つけると頭から水中に飛びこみます。くちばしが長く、すずめより少し大きい位です。年中河川等で見られ背は青く、胸腹は赤褐色をしています。



矢部村 栗原 浩暢

籐編みによる籠作り

八女農業高等学校

本校3年生は、社会人特別講師招聘事業で籐編み講師森久美子先生をお迎えし、「籐編みによる籠作り」を学習しました。1本の細い籐から籠を編みあげていく実習は生徒達の興味関心が高く、時間が過ぎるのも忘れるぐらい熱心に取り組みました。先生は生徒一人一人に丁寧に指導され、籐の知識はもちろん、伝統的な籐編みという物作りの大切さを学ぶことができました。

(生徒の感想紹介)

●初めて籐を見たときは「長い細い棒みたいなのはなんだろう」と思っていました。触ってみると固くてすぐ折れそうだなあと思いましたが、水につけると籐が柔らかくなり折れなくなることを知りました。編み始めるとすき間ができ、2本ずつ上、下と編んでいく作業がとても大変で途中何回も先生に手助けしてもらい慣れると編むのが楽しくなり、どんどん籠になっていく姿を見てとても感動しました。普段できない貴重な体験ができました。

(立花中学校出身 近藤 ほのか)

●籐編みの籠は祖母が持っていたり、テーブルの上にお菓子が入っているのを見たことがあります。身近な籠が籐という自然のつるで作られていると聞き驚きました。「私にも簡単に作れそう」と思っていました。森先生に優しく手直しをしていただき、立派な籠ができました。完成した籠は一人一人形が違い、手作りだからこそ得られる暖かみもありました。今度は一人で作って祖母や祖父にプレゼントしたいと思いました。

(黒木中学校出身 田形 朱加)



9月の校内販売所(みらい館)の開館日 1日(火)、4日(金)、8日(火)、11日(金)、15日(火)、18日(金)、25日(金)、29日(火) 販売時間は10時30分～15時30分です。多くの皆様のお越しを心からお待ちしています。

健康よもやま話 ⑨



姫野病院：松浦 緑郎 (健康管理士一般指導員)

●糖尿病

一般の学名で「糖尿病」は、Diabetes Mellitus といいます。前半の Diabetes とはサイホンのごとで通り抜ける、後の Mellitus は甘い蜂蜜という意味で、まとめると「甘い蜂蜜が体の中を通り抜ける」となります。もう少し厳密にいうと、血液に糖が溢れているので、それが尿にも現れるということですが、それにしてもこの命名はなかなか的を射ており正確です。



現在、わが国には950万人の糖尿病患者(予備軍も含めると2050万人以上)がいるといわれていますが、このうちの90%以上は大人になって現れるもので、インスリン非依存型と呼ばれています。これは長年、糖分を摂り過ぎたために膵臓が疲れ果てインスリン分泌が減った結果おきてくるもので、30歳を超えると増えだし、男性では50歳、女性では60歳以降でさらに増加していきます。

糖尿病になると、体の中をいつも甘い血液が流れているために血管壁は脆くなり、その人の年齢以上に動脈硬化が進行するようになります。目の網膜の血管が傷んで視力が下がったり、腎臓の血管を害して腎不全や高血圧を招きます。糖尿病の人は心筋梗塞にもかかりやすくなります。糖尿病ではそれ自体で死ぬことは少ないのですが、心臓や腎臓を害して、それが命とりになるのです。

大人になる糖尿病の大部分は遺伝的な体質があり、これに甘いものの摂り過ぎや過食、アルコールの飲み過ぎが続くことで発病しますが、糖尿病の体質があっても食べ過ぎや飲み過ぎがなければ発病しません。つまり、日頃の食生活に注意し、太り過ぎないことで発病や悪化を防ぐことが可能なのです。

こう書くと簡単そうですが、食べ物が氾濫する今日、私たちを糖尿病に追い込む誘惑はあまりにも満ち溢れています。この多い誘惑のなかでいかに健康に生きていけばいいのか。もしかすると、糖尿病は、ものの溢れた現代に生きる私たちに「自己を律して生きよ」と神が下した罰と命題なのかもしれません。

